

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	18 - 文学 - 4
-----------------	-------------

平成 18 年度配分 研究成果の概要

研究名	静岡県西部地域における歴史資料所在データベースの作成				
配分を受けた 特別研究費	文化政策学部長特別研究費 350 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学部	国際文化学科	准教授	西田かほる	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:『日本・東アジア文化研究』6 号 予定		発表日 (発表 予定日)	平成 20 年 3 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

東海地震などの災害に備えるため、また地域の歴史を残す基本情報として、民間に所在する歴史資料の所在データベースを作成することを目的とする。

阪神淡路大震災や中越地震、台風などの諸災害において、地域を語る貴重な歴史資料の多くが散逸あるいは滅失している。災害時に最も後回しにされるのが、文化財のレスキューだからである。静岡県には県立博物館や文書館といった文化行政の中核がないため、災害時の文化財レスキューにおける大学の役割は大きくならざるを得ない。しかし情報のないところでは、速やかで適切な活動はおこなえない。歴史資料の所在データベースの作成は、地域社会における大学の重要な役割の一つであると考える。

(研究の実施方法等)

昨年度に引き続き、史料目録や自治体史の発行状況を把握することにつとめ、資料の所蔵者(地域)と資料点数・内容の概要、情報の出典(問合せ先)などを盛り込んだデータベース作成をおこなった。

他大学や他の研究者との連携・交流については、NPO 法人歴史資料継承機構(南伊豆を中心に活動)の代表と静岡県内における資料保存の状況について意見交換をした。また、30 年ほど前に北遠地域で史料調査を行っていた団体のメンバーからも話を伺い、過疎化や市町村合併などによって史料の散逸や滅失がないかなど、現地で史料の再調査をする必要があることを確認した。

中越地震の被災地となった小千谷市でおこなっている魚沼神社の史料調査については、今年度も継続しておこない、地域の資料保存活動を援助した。

(得られた成果等)

静岡県西部地域の自治体史などをはじめ目録類の発行状況などを、ほぼ把握することができた。所在情報のデータベース化はまだ完全とはいえないものの、今後とも継続してデータ収集を行う道筋を整えることができた。データ件数などの詳細については、後日学会誌などで報告する予定である。

また、歴史資料継承機構代表や北遠での史料調査を行っていた方と意見交換を行うことによって、過疎化がすすむ山間部などにおいては、災害にかかわらず緊急に現地での概要調査をする必要があることも改めて認識することができた。あわせて、これらのNPO 法人などとの連携や協力関係を築く基盤ができた。

新潟県小千谷市魚沼神社の史料調査では、これまでに2,000 点余(全体の1/4 程度)の史料を目録化するとともに、史料を中性紙封筒や保存用段ボール箱などに収納するなどして、保存処置をおこなった。